

# 中国の伝統的な建築様式「四合院」に関する研究

## —北京地区における四合院使用実態の分析—

久木ゼミ

張 征

### 1. 研究目的

北京地区に現存する四合院建築に着目して研究を行う。本研究では、四合院の形成、歴史、建築様式と構造様式などの文献調査を行った上で、四合院住宅に住む人々、四合院建築の利用者を対象に、四合院に対する「意識」、「感覚」、「評価」、「想い」などについてヒアリング調査を行った。調査対象は四合院住宅のみではなく、四合院を改装したホテル、飲食店など、他の用途として使われる四合院とした。ヒアリング調査の結果から、四合院建築の利点と欠点、使われ方の歴史、四合院の衛生設備などに着目した考察を行った。また北京の中心地にある四合院のみではなく、郊外にある山に囲まれた四合院群のある川底下村も調査対象とした。現存している四合院が減少しつつある中で、北京地区の四合院の多種多様な使用状況を明らかにすることを本研究の目的とした。

### 2. 四合院の概要

四合院とは、西周時代に形成された中国の代表的中庭住宅である。北京の四合院(写真-1)は胡同(写真-2)に面し、昔ながらの町並み(写真-3)を形成している。外部に対しては閉鎖的な構造となっているが、内側には内部の中庭にむけて開放的な作りである。

四合院は北京のシンボルとして長い時間を経て保存されているもので、東西南北から包むようにして建てられている。四合院の四の字は、東西南北の四面を表し、合の字は取り込むという意味である。

一般的に、玄関を東南または西北の隅に開き、北の部屋を母屋にして使用する。母屋(写真-4)はレンガや石で建てられた礎の上に建てられ、そのほかの部屋(写真-5、6)より広く、四合院の主人に当てられる。中庭の両側に東西の小さな部屋があり、ここが家族の部屋に当てられる。中庭に面して廊下があり、通路としても涼むところとしても使われている。また四合院の塀や通りに接する部屋は普通、窓を開けない。したがって、外部には閉鎖された空間となり、物静かな雰囲気が漂う。四合院の典型的な特徴は決まった形と対称の様式である。これが広く使われると王府や宮殿の形になり、これらは四合院を原型としていると言える。基本的な構造形式としては華やかな紫禁城も、郊外にある民家の四合院もある意味原点は同じであるといえる。



写真-1 四合院  
(出典『北京四合院』)



写真-2 胡同



写真-3 北京の町並み  
(出典『四合院情思』)



写真-4 母屋



写真-5 西廂房



写真-6 東廂房

### 3. 研究方法

☆文献調査

☆現地調査およびヒアリング調査

- 対象：北京中心地に現存する四合院住宅 4箇所
  - 郊外にある四合院村の住宅群(川底下村) 4箇所
  - 四合院を改装したホテル 5箇所
  - 四合院を改装した飲食店 5箇所
  - その他(記念館、茶館、按摩院、大雑院など) 4箇所
  - 合計箇所 22箇所
- 内部の見学、使われ方の確認、改装状況などを調査
  - 四合院建築の居住者、利用者に意識や想いをヒアリング調査

### 4. ヒアリング調査

★四合院住宅の住民達のヒアリング結果で得られた意見の一部を以下に示す。

四合院住宅は風水がいいし、中庭があって、自然に親しむから、最も住みやすい住宅。先祖の遺産なので、ずっと四合院住宅に住みたい。

・四合院住宅は一戸建ての独立住宅であり、住民には高級意識がある。  
・現存している四合院は中心部にあるため、利便性がよい。

・四合院は閉鎖的な空間なので、安全性が高い住宅。  
・平屋なので、光や風などの自然に親しめる。

★四合院を改装したホテル、飲食店の利用客のヒアリング結果の一部を以下に示す。

なぜ四合院を改装したホテルや飲食店を利用したのか？四合院をどう思うか？

・四合院様式のホテルは、普通のホテルより中国の味が濃い。胡同の奥にあるから、胡同の中を散歩しながら、昔の北京人の生活を味わいたい。(カナダ人の客)

・四合院建築は、中国の特有な建築様式で、中国の古い文明が凝縮された芸術だ。実際に泊まってみたら、素晴らしかった。ビルタイプのホテルとは一味違った、味わい深いステイを楽しめるのが魅力だ。(アメリカの客)

・四合院様式のレストランで食事するのは楽しい。特に、中庭の席に座って、自然を感じながら美味しい料理を食べるのは二重の喜びだ。(中国人の客)

### 5. 北京地区における四合院使用実態

#### A. 北京中心地にある四合院住宅

この四合院住宅(写真-7から10)は、明代にはすでに建てられていたもので、800年の歴史がある住宅である。四合院の持ち主は、清代の皇族の子孫であり、二度の修繕を経て、今の様子を保っている。



写真-7 大門



写真-8 土台



写真-9 門環



写真-10 飾りもの

この四合院の家族は四代目である。もとは大家族だが、現在は60歳の夫婦二人のみで住んでいる。建設当初からトイレが設置されていたが、後で北房(北側の部屋)にトイレを追加した。2003年に修繕したが中庭も建物の模様もほとんど変わっていない(写真-11から13)。



写真-11 正房(母屋)



写真-12 西廂房



写真-13 東廂房

この四合院の持ち主は皇族の子孫で、一度国に供出した住宅を買い戻した。また室内にある家具(写真14)などもすべて昔の様式の家具を探して買い集め、もとの状態に戻したが、これらに一億円以上を費やした。



写真-14 太師椅



写真-15 腰掛け椅子



写真-16 机



写真-17 棚

2008年北京オリンピックを開催する前に、国際コミュニケーションのため、ここは四合院住居のモデルとして指定された。



写真-18 廊下



写真-19 四合院鳥瞰



写真-20 外院の風景

夫婦とも今の住居に非常に満足している。マンションに住んだこともあるが、四合院が最も住みやすいと感じている。公園のような住居環境で自然に親しめるのがよい。ただ面積が大きいので、修繕は大変である。



## B. 北京の郊外における四合院住宅

川底下村（写真-21）は、明、清時代の建物がほぼ完全に残された四合院建築物が70戸余り残されていて、500年以上の歴史がある四合院建築群である。



写真-21 村の鳥瞰



写真-22 住宅の大門



写真-23 木造の窓

この四合院には、三人家族が住んでいる。部屋数は9で、総面積は150平方メートルである。家族の先祖からずっとここに住んでおり、この四合院は造られた当時からトイレがある。夫婦は40歳代で、家族はずっとこの四合院に住んでいる。マンション、集合住宅などに住んだ経験はない。2003年に全体を修繕し、建物の模様も変わったが、中庭の様子はほとんど変わっていない。室内の家具はすべて新しいものである。



写真-24 北側の部屋



写真-25 食卓



写真-26 寝室



写真-27 東側の部屋

四合院は先祖から受け継いだものである。近年、四合院建築に興味を持っている人が増えており、特に北京の四合院は代表的なものとして注目されている。1995年に村が見学を開放して以来、見学に来る客が多くなって、この四合院も民宿として観光客に貸し出している。

## C. 四合院を改装したホテル

「春秋園」という四合院ホテルは、元の時代に建てられたもので、およそ800年の歴史があり、明清時代には金持ちの住宅だった。典型的な二進式で、2006年からホテルとして使用されるようになった。庭の様子は以前とほぼ同じであるが、外院から裏院へ行く通路の所に、地下に下りる階段を造って、地下室を増築した（写真-30）。ここは現在、レストランとして使用している



写真-28 大門



写真-29 フロント



写真-30 増築した部分



写真-31 客室

この四合院ホテルの総面積は350平方メートルで、客室（写真-31、32）の数は8である。改装する際に、建物の外部を綺麗に塗った。その主な色は中国の赤、黄色と緑だった。特に、外部と室内のインテリアともに、昔の宮廷建築のインテリアのようにした。外は彩色を施した梁や棟であり、室内のインテリア（写真-34）も華麗な感じがする。家具はすべて明代の硬い家具だった。

外国人の客に人気が高く、ビル型のホテルとは一味違った、味わい深いステイを楽しめるのが魅力となっている。



写真-32 北側の客室



写真-33 中庭にある築山



写真-34 室内

従業員に「なぜこの四合院をホテルに改装したか」と質問したところ、「四合院建築は中国の伝統的な建築様式で、ホテルの経営者は四合院文化が大好きなので、四合院様式のホテルを運営しながら、中国文化が好きの人々に伝えたいのだ」と回答した。

## D. 四合院を改装した飲食店

この四合院を改装したレストランは、もともとモンゴル親王の邸宅だったところである。2005年に、一部を改装してレストランとしたのが始まりだった。伝統的な灰色の古民家を立派な四合院レストランに改装し、伝統とモダンが融合した空間である。増築した（写真-38）2階の席からは、格子越しに中庭の樹木や形が美しい瓦の屋根が見渡せる。



写真-35 大門



写真-36 中庭席



写真-37 心地が良い室内



写真-38 増築した部分



写真-39 和風の室内



写真-40 棟木

室内（写真-39）のインテリアは、クラシック風や現代風など、さまざまな要素を融合していて、独特の風格がある新様式の四合院である。

## E. 大雑院

通常、四合院は家族単位で住むことが多いが、場合によっては複数の家族と一緒に住むこともある。これは「大雑院」と言われ、このような住居様式は、一つの家族が住む四合院から変遷したものである。改造や増築を繰り返したものが多く、もとの四合院の形がすでにわからなくなっているものもある。また賃貸となっている場合も少なくない。敷地内にトイレがないことが多く、その場合は胡同にある公衆トイレを使っている。



写真-41 大門



写真-42 通路



写真-43 改造した部分



写真-44 もとの正房



写真-45 増築した部屋



写真-46 電気メーター



写真-47 公衆トイレ

## 6. 考察

四合院住宅の居住者や、四合院建築の利用者に対するヒアリング結果を一覧表に整理した。結果の一部を以下に示す（表-1）。

表-1 調査を行った四合院の特徴一覧（一部）

場所	北京中心部の四合院住宅-A 北京市の中心部	川底下村の住宅-A 北京市の郊外	四合院を改装したホテル-A 北京市の中心部	四合院を改装した飲食店-A 北京市の中心部	大雑院 北京市の中心部
用途	一つの家族が住む住宅	一つの家族が住む住宅	私邸を改装したホテル	清代のモンゴル親王の邸宅を改装したホテル	複数の家族が住む住宅（一つの家族が住む四合院から変遷したもの）
築年数	800年	500年	800年	500年	500年
総面積	700平方メートル	200平方メートル	350平方メートル・客室8間	300平方メートル	700平方メートル
使用状況	60代の夫婦	3人家族	外国人客に人気高いホテル	外国人客に人気高い飲食店、ビジネスの予約も多い	25家族、95人
改装や増築すること	●	●	●	●	●
衛生設備状況	●	●	●	●	x
利便性	●	中心部に比べ、少し不便	●	●	●
四合院の利点	公園のような住環境で、自然に親しめる。外はどんなうらさくても、中は心が落ち着く	平屋形で、中庭の面積が広く、人の動かしやす空間も広い。	中国の特有な建築様式で、自然と親しめて、中庭に散歩したり、本を読んだりするのは気持ちいい。	中国の伝統的な建築様式を改装して、伝統と現代の美を融合しているため、心地がいい空間。	近所の人とは親しい関係なので、親戚のような感じがする。
四合院の欠点	胡同が狭くて、駐車スペースがない	自宅についてはあまりないが、他のトイレが付いていない四合院は、公衆トイレを使うのが不便	なし	胡同が狭くて、駐車スペースがない	トイレがないことで、不便さを感じる
四合院に満足さ	●	●	●	●	x

なお、居住者や利用者の視点で四合院の利点や欠点として挙げられたものの一部を以下に示す。

### ●四合院の利点

- ★中国では珍しい戸建の独立住宅なので、高級感がある。
- ★閉鎖的な空間なので、安全性が高い。
- ★壁が厚いこと、外部に窓がないことから、内部空間は静かである。外部がどんなにうるさくても、中にいれば心が落ち着く。
- ★中庭に植物を植えたり、金魚を飼ったり、マンションでは味わえないのんびりとした暮らしができるのが良い。
- ★平屋で、光や風などの自然に親しめるのが良い。（中庭で日照確保）
- ★夏は涼しく、冬は暖かい。（四合院は壁や天井が厚い）
- ★現存している四合院は中心部にあるため、利便性が良い。
- ★四合院様式のホテルは、ビルタイプのホテルより中国の味が濃厚。

### ●四合院の欠点

- ★一部の胡同は少し狭いため、駐車スペースがない。
- ★修繕の費用が高い。
- ★トイレがない場合、公衆トイレを利用しなくてはならず、不便。
- ★老朽化した四合院は、下水と排水の設備が完備されていない。

四合院の居住者は、最新設備などがなくても四合院住宅を最も住みやすい住宅だと考え、住居環境について非常に満足していた。

しかし同じ住宅でも大雑院は空間が雑然としており、中庭に建物を増築したため、四合院の良さが失われている場合も多い。特にトイレが付いていない問題点もある。そのため大雑院の居住者は、住居環境に満足できていない人が多い。

また四合院を改装したホテルや飲食店の場合、利用者は中国人にも外国人にも、「四合院建築は雰囲気がいい空間」と評価されている。

高層建築が立ち並んでいる北京で今なお現存している四合院は、昔より、もっと美しい姿を残している。取り壊された四合院も多い中、現存している四合院は今後も美しいまま残されていくことを期待している。